

【ワーキング・セッション : 情報アクセシビリティ】

～ 通信放送分野における情報バリアフリー促進支援事業等の実施状況について～

( 障害者基本計画 6 - ( 1 ) - 1、6 - ( 2 ) - 3、6 - ( 4 ) - 1 )

平成27年5月

総務省

# 通信・放送分野における情報バリアフリー促進支援事業

障害や年齢によるデジタル・ディバイドを解消するため、通信・放送分野における情報バリアフリーの推進に向けた助成を実施。

## 1 施策の概要

- (1) ICTの進展は、日常生活をはじめとする多くの場面において、様々な恩恵をもたらしている一方、障害や年齢によるデジタル・ディバイドのために、その恩恵を十分に享受できていない者も多く存在している。
- (2) このようなデジタル・ディバイドを解消し、障害者や高齢者を含めた、誰もがICTの恩恵を享受できる情報バリアフリー環境を実現するため、以下の助成を実施する。

### 身体障害者向け通信・放送役務の提供・開発等の推進 ( )

独立行政法人情報通信研究機構を通じ、身体障害者の利便の増進に資する通信・放送役務の提供を行う者に対し、その資金の2分の1を上限として助成金を交付する。また、かかる事業に関し、情報の収集、調査等を行い、その成果の提供等を行う。

### デジタル・ディバイド解消に向けた技術等研究開発支援

高齢者・障害者の利便の増進に資する通信・放送サービスの充実にに向けた、新たなICT技術等の研究開発を行う者に対し、その経費の2分の1を上限として助成を実施する。

「身体障害者向け通信・放送役務の提供・開発等の推進」については、「身体障害者の利便の増進に資する通信・放送身体障害者利用円滑化事業の推進に関する法律（平成5年法律第54号）」に基づいて実施。

## 2 所要経費（一般会計）

平成27年度予算額	95百万円
平成26年度予算額	107百万円

# ウェブアクセシビリティ向上のための取組の支援

国及び地方公共団体等の公的機関でのウェブアクセシビリティ確保の取組を支援し、高齢者・障害者のバリアフリー化に寄与するため、「みんなの公共サイト運用モデル」及び「みんなのアクセシビリティ評価ツール(miChecker)」を開発・公表。

## 1 支援の背景・目的

ICTの社会基盤としての重要性が高まり、様々な情報がインターネット上で提供される今日では、障害者や高齢者を含めたあらゆる人々が、インターネットを介して情報にアクセスできる環境の整備が重要である。

そこで、JIS X 8341-3:2010 に基づくウェブアクセシビリティの確保に向けた公的機関の取組が推進されるよう、その支援のために「みんなの公共サイト運用モデル」及び「みんなのアクセシビリティ評価ツール(miChecker)」を開発・公表した。これにより、高齢者・障害者のウェブのバリアフリー化を図り、誰もがICTを活用した情報アクセス可能な環境の実現を目指すもの。

## 2 みんなの公共サイト運用モデル

ウェブアクセシビリティの日本工業規格であるJIS X8341-3:2010が求める要件について、実施すべき取組み項目を示した手順書で、総務省が2010年度に作成・公表。

本運用モデルは、本体となる「ウェブアクセシビリティ対応の手引き」と、「ウェブアクセシビリティ方針の策定・公開の手順書」、「外部発注におけるアクセシビリティ確保手順書」、「高齢者・障害者のホームページ利用確認ガイド」の付属資料で構成されている。本体の「ウェブアクセシビリティ対応の手引き」では、単なる用語解説にとどまらず、取組体制や実施すべき取組の概要等について説明を行っている。

## 3 みんなのアクセシビリティ評価ツール(miChecker(エムアイチェッカー))

各機関が運営するホームページについて、JIS X 8341-3:2010 に基づくアクセシビリティの検証・試験を行うためのチェックツール(プログラム)で、「みんなの公共サイト運用モデル」の公開にあわせ、2010年度に提供を開始。

本評価ツールは、ホームページに同規格の不適合の可能性を発見した場合、その箇所を特定するとともに、修正方法等を表示する機能を有するチェックツールである。総務省は、各機関がこのツールを活用することでウェブアクセシビリティ確保の取組みを効率的に行えるよう支援するもの。